事例No.	1316
公表年度	H30
団体の属性	町村
団体名	岩手県住田町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・移住定住 ・地域運営組織

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

すみたループ事業

出典

平成30年度「「関係人口」創出事業」モデル事業調査報告書

3. 住田町 すみたループ事業（事業パターン（１）①）

3.1 地域の特徴と事業のねらい

(1) 地域の特徴

住田町は豊富な森林資源に恵まれた町で、「森林・林業日本一のまちづくり」を打ち出し、森林（もり）業を地方創生の力とすべく取り組んでいる。

人口減少や高齢化の進行に加え、地元に残りたくても望む働き場所が少ないために若者を中心とした転出者が多く、遊休農地や空き家が目立つようになった。

地域づくりの担い手が不足したことで、交流機会が減少し、地域全体の閉塞感が増加していることが課題である。

(2) 事業のねらい

1）解決したい地域課題

地域づくりの担い手が不足したことで、交流機会が減少し、地域全体の閉塞感が増している他、地域の伝統文化等の継承活動が停滞している。

2）地域課題を将来どのようにしたいか（アウトカム）

関係人口が持つノウハウ、スキル、ネットワーク等を活かし、地域住民と交流しながら、地域づくり、地域の課題解決、伝統文化の継承活動等に関わってもらい、地域の閉塞感を打破したい。

また、地域内外の人材を結びつけるネットワークも形成し、新たな交流イベントの開催や、関係人口から移住者への移行を促したい。

3）前述の地域課題を今年どのようにしたいか（アウトプット）

すみた現地ツアーを開催し、参加者全員（20 人程）を「関係人口」となっていただくよう取り組む。

3.2 事業内容

(1) 関係人口を募る仕組み

1）すみた大好き大使等訪問

・ 中間支援組織である一般社団法人 SUMICA のネットワークを活用し、すみた大好き大使、住田町に興味を抱いている人、首都圏の大学生等に対し、関係人口に関する説明会のご案内を行った。説明会は、首都圏等に確保した会場において 3 回実施した。説明会では、関係人口に対する理解と賛同を得ることを目的に、住田町や関係人口に関する説明と、町づくりや地域の課題等に関する意見交換を行った。

・ 各回の概要は、下表の通りである。

表 II-1 すみた大好き大使等訪問 実施概要

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
実施日	平成 30 年 6 月 29 日	平成 30 年 10 月 20 日	平成 30 年 12 月 15 日
実施場所	東京都内	名古屋市内	東京都内
参加者の募集	住田町の住民交流拠点施設内にある蔵の保存改修に関わりのあった東京理科大学の非常勤講師に依頼し、学生を中心に周知した。	愛知県内を中心として、一般社団法人 SUMICA の事業でつながっている人やすみた大好き大使に直接案内を行った。	一般社団法人 SUMICA が主催するイベント「すみたのごはんあがらっせ」と合わせて開催した。
参加人数	合計 12 人 ・ 設計関係 2 人 ・ 大学生 8 人 ・ 左官業 1 人 ・ 写真家 1 人	合計 23 人 ・ NPO 職員 2 人 ・ 民間企業勤務 17 人 ・ 公務員 3 人 ・ 医師 1 人 ・ その他（愛知県東海市、名古屋市、安城市、豊橋市、設楽町、三重県桑名市、紀北町）	合計約 80 人 ・ 一般社団法人 SUMICA とのつながりがある人 ・ イベントを知っている町民から声掛けがあった在京の人 ・ Facebook

出所）住田町成果報告書

(2) **継続的なつながりに向けた取組**

1）すみた現地ツアー

- 説明会の参加者を対象に、地元住民と直接触れ合う場、住田町への想いを共有する場として「すみた現地ツアー」を開催し、実際に住田町を訪問してもらった。
- 地域に関心を持つ地域内外の人材の多様な関わりを創出すべく、地域住民との意見交換の他に、将来的な移住を視野に入れた町づくりや起業支援などの情報交換も行った。
- 当初は 3 回開催することを計画していたが、事業スケジュールに余裕がなく、また説明会での希望人数が少なかったことなどが影響し、2 回開催となった。

表 II-2 すみた現地ツアー 実施概要

	第 1 回	第 2 回
実施日	平成 30 年 8 月 8 日～8 月 9 日	平成 31 年 1 月 24 日～1 月 25 日
参加人数	合計 15 人（募集定員 5 人）	合計 4 人（募集定員 10 人）
実施内容	・ 下有住夕涼み会への参加。 ➢ 会の準備から参加し、準備段階や開催中、開催後の食事会などで地元住民と交流を深めた。 ➢ また、参加者からの申し出により、竹のオブジェ制作と展示を行った。 ・ 公共施設見学 等	・ 世田米地区の伝統行事「水しぎ」への参加 ・ 林業関連の現場見学 等

出所）住田町成果報告書

- ➢ 第 1 回現地ツアーに参加した大学生からは、以下の感想が寄せられた。
  - ✧ 地域の人々が非常に大らかで歓迎していただいている感が心地よかったです。
  - ✧ 準備作業では町の方々の協力やアドバイスを受けながら行うことができました。ものづくりの良さを再認識するとともに、地域の人々とのコミュニケーションの楽しさを知ることができて良かったです。
- ➢ 第 2 回現地ツアーの参加者にアンケート調査を実施したところ、参加者全員が住田町との継続的な関わりを希望した。

2）広報誌発行

- ・ すみた現地ツアーの様子や、住田町の四季の情報を掲載した広報誌を作成した。
- ・ 説明会やツアーに参加した関係人口に配布するとともに、住民交流拠点施設、道の駅、町内のコンビニエンスストアなどに設置し、不特定多数の方々に配布を行った。
- ・ 事業期間中 3 度広報誌を作成し、「すみたの夏」を 400 部、「すみたの秋」を 600 部、「すみたの冬」を 600 部発行した。
- ・ 今後は、公式 Facebook や町の Web サイトへの掲載などの範囲拡大を検討したい。

3.3 成果分析

(1) 事業参加者に対するアンケート等の結果及び分析

1）アンケート調査

- ・ 説明会や現地ツアーの参加者を対象にアンケート調査を実施し、41 人から回答を得た。
  - ➢ 「地域内外の人材を結びつけるネットワークづくりに興味がありますか」という設問に対して、「興味がある」と回答した人は 18 人、「興味はない」と回答した人が 0 人、「わからない」と回答した人が 1 人という結果になり、半数近くの人が、住田町の地域内外の人材を結びつけるネットワークづくりに興味があると回答した。
  - ➢ 「住田町と今後も関わりを継続したいと思いますか」という設問に対しては、「年一回以上訪問

しながら継続したい」と回答した人が 7 人、「関わりのみ（訪問無し・提言のみ）継続したい」と回答した人が 4 人、「継続は考えていない」と回答した人が 2 人、「わからない」と回答した人は 6 人であった。11 人が住田町との関わりの継続の意向を示した。

(2) **事業成果に対するふりかえり**

1）中間支援組織の強みを活かした事業遂行

一般社団法人 SUMICA がもつネットワークを最大限に活用し、説明会の参加者は合計 100 人を超える結果となった。一般社団法人 SUMICA には中間支援組織としての役割を依頼したが、実際には、委託業務以外はあえて明確に役割分担をせずに、連絡調整を密にしながら遂行した。一般社団法人 SUMICA のネットワーク力、行政の組織力などのそれぞれの強みを生かし、お互いを補いながら事業を進めることができた。

2）関係人口に対する理解の促進

主催者側からの一方的な説明ではなく、飲食を交えながら個別に意見交換したことにより「住田町」を知ってもらうだけでなく、「関係人口」の必要性について十分な理解を得ることができた。

すみた現地ツアーでは、実施回数こそ予定より少ない結果となったが、合計 19 人の参加があり、うち 5 人が今後も関係人口として住田町と継続的に関わる意思を表明した。

3）マッチングの難しさ

地域と関わりたいと考えている人と、ネットワークづくりを希望している人とのマッチングの難しさを感じた。互いの思いを調整し「つなげる」ための中間支援組織の存在が、重要な役割を担うことが分かった。また、「関係人口」という考え方を理解したうえで、地域をどのようにデザインしていくかは、地域内の人が決めなければならないことであり、自立的で継続的な地域づくりを実現するためには、中間支援機能の強化を図る必要がある。

(3) **今後の取組に向けた課題**

1）人とのつながりを活かした、関係人口の拡大

中間支援組織に依存し続けては、継続力がなくなるリスクがある。地元住民の中で機運を高め、磁石で地域に人が吸い寄せられるような人の集め方、取組が必要である。人とのつながりを活用することで、住田町や関係人口に対する熱量が多い人を呼び込みやすく、関わりが継続しやすいと考えられる。呼びかけをしなくても勝手に地域外の人が来るような地域との関係性が、今後構築できるとよい。

2）地元住民の主体性を引き出す

外から呼びこんだ人とのコミュニケーションの中で、地元住民の主体性をいかに作り出すかが、次なる課題である。単位目的の熱量の低い学生を呼び込むリスクがあるという点で大学組織との関わり方は注意が必要だが、熱量の高い大学生が継続的に住田町に関わることで、今度は地域としてどう受け止めるかという議論を始めることができる。このような関係作りが広がっていくとよい。